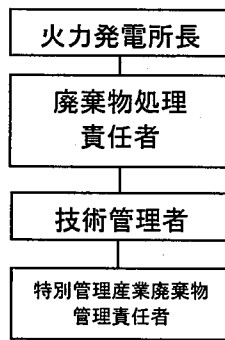


（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
2023年6月26日	
富山県知事	
新田八朗 殿	
提出者	
住 所 富山県富山市牛島町15番1号	
氏 名 北陸電力株式会社 代表取締役社長 社長執行役員 松田 光司 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 076-441-2511	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	富山新港火力発電所
事業場の所在地	射水市堀江千石1番地
計画期間	2023年4月1日～2024年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	電気業
② 事業の規模	2022年度発電電力実績 富山新港火力発電所 合計：5,823GWh 富山新港火力発電所 2号：678GWh 富山新港火力発電所石炭1,2号：2,876GWh 富山新港火力発電所 LNG1号：2,269GWh
③ 従業員数	189人(2023.3.31 現在)
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙の通り ・別紙-1「製造及び廃棄物発生フロー」 ・別紙-2「産業廃棄物処理フローシート」

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



(管理担当課)

業務課

発電環境課

工事担当課
(工事課・技術課)

(担当業務)

- ・一般廃棄物の処理処分
- ・一般廃棄物集積場の維持管理
- ・一般廃棄物処理処分委託契約の締結
- ・産業廃棄物の処理処分 (石炭灰、重原油灰、排水汚泥)
- ・産業廃棄物処理施設の維持管理
- ・廃棄物に関する記録、報告、諸届
- ・廃棄物に関する業務取りまとめ
- ・夜間、休日における産業廃棄物処理施設の監視
- ・工事に関する産業廃棄物の処理処分
- ・廃棄物集積場の維持・管理
- ・産業廃棄物処理施設の保守

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度 (2022 年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	別紙-3のとおり	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	別紙-3のとおり	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) (1) 分別している産業廃棄物の種類 廃油、廃プラ、木くず、金属くず、ガラス陶磁器くず (2) 分別に関する取組 自社が排出する産業廃棄物は、産業廃棄物集積場で産業廃棄物と再生利用可能なものに分別し、保管している。また、協力会社や工事関係者に対して分別、回収の周知徹底を図っている。
	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) (1) 今後分別する予定の産業廃棄物の種類 廃油、廃プラ、木くず、金属くず、ガラス陶磁器くず (2) 分別に関する取組 自社が排出する産業廃棄物について、継続して産業廃棄物集積場で産業廃棄物と再生利用可能なものに分別・保管する。また、協力会社や工事関係者に対して分別、回収の周知徹底を継続する。
②計画	

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ばいじん	燃え殻
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	12,150 t	9,203 t
	(これまでに実施した取組)		
	・土地造成のため石炭灰を灰処分場に埋め立てた。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ばいじん	燃え殻
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	22,000 t	10,000 t
	(今後実施する予定の取組)		
	・石炭灰の排出抑制対策を実施するとともに、リサイクルおよび土地造成等の再生利用拡大に継続して取組む。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

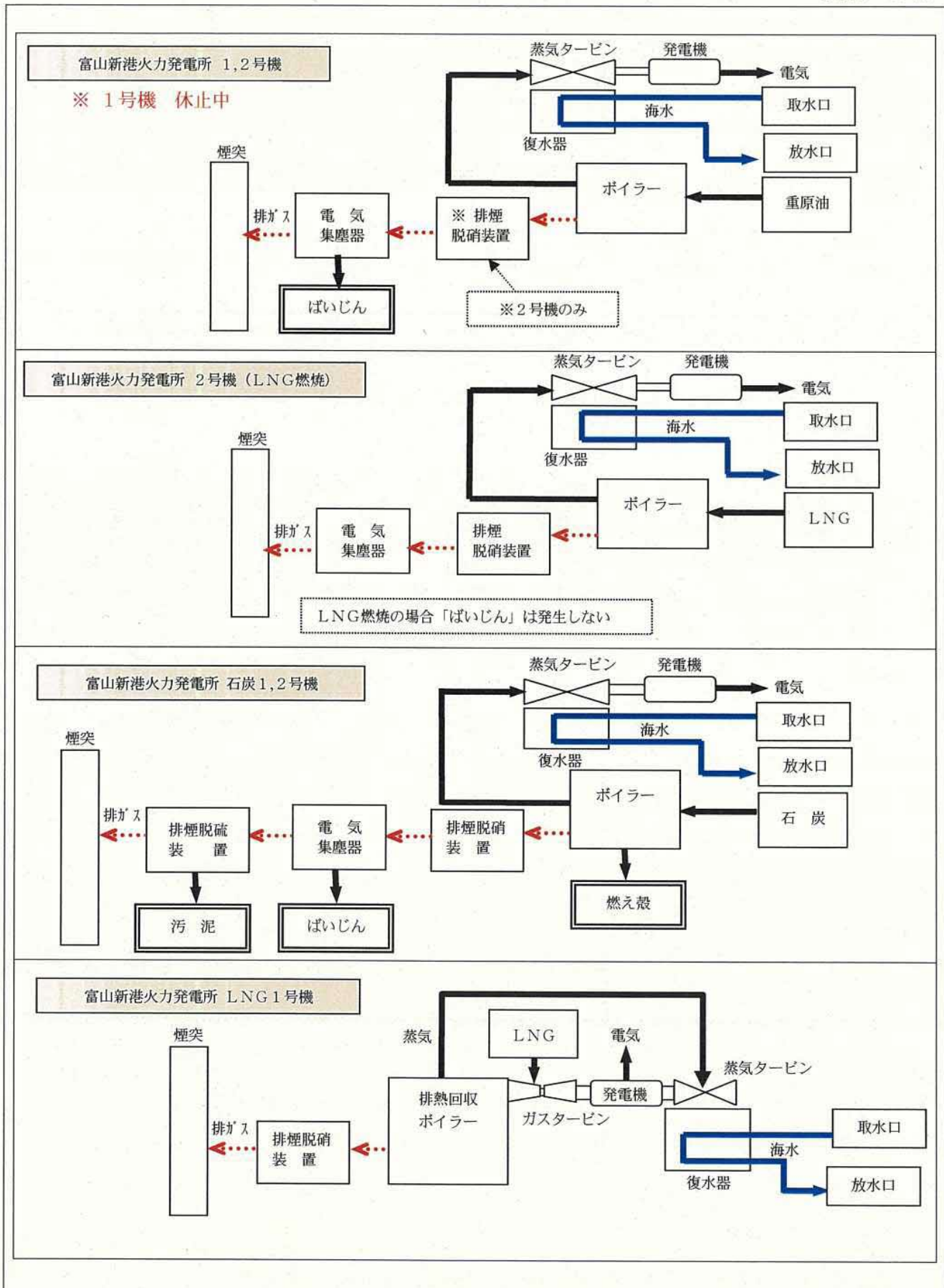
①現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	別紙-4のとおり t	
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	別紙-4のとおり	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

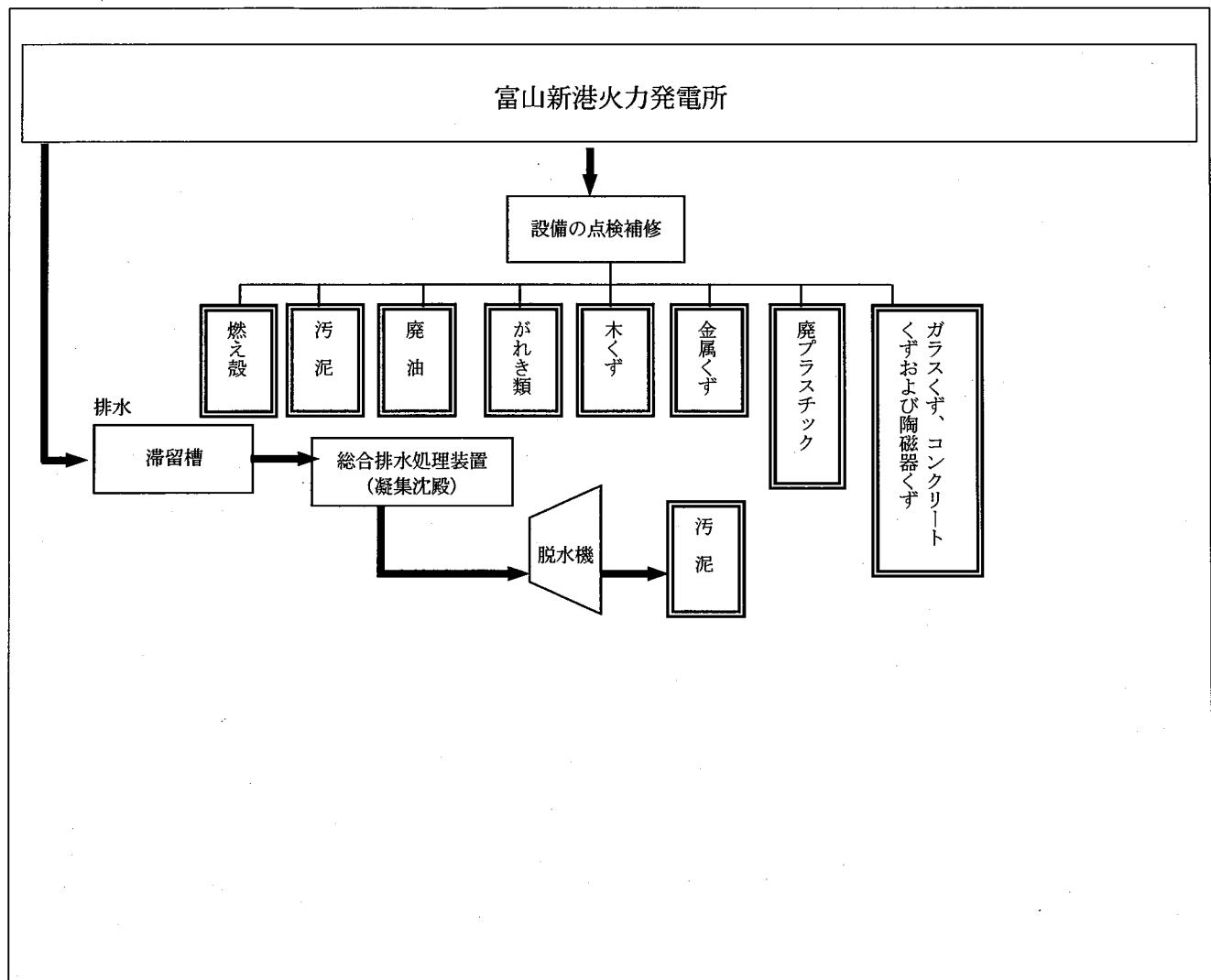
(第6面)

備考

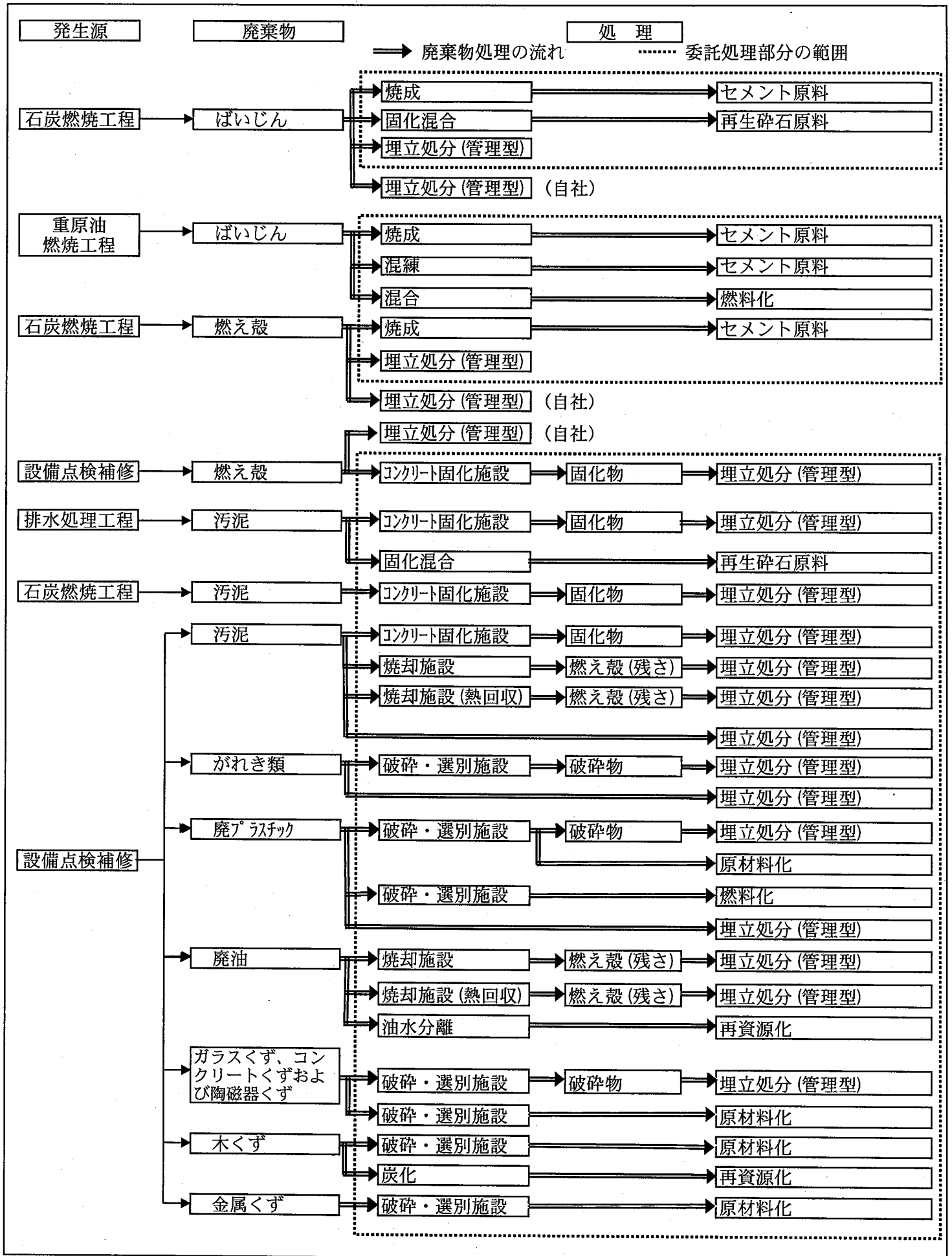
- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。



製造及び廃棄物発生フロー



製造及び廃棄物発生フロー



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項（第2面）

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項										
【前年度（2022年度）実績】										
①現状	産業廃棄物の種類	ばいじん	燃え殻	汚泥	廃油	廃プラスチック類	木くず	金属くず	ガラス コンクリート 陶磁器くず	がれき類
	排 出 量	96,397 t	9,378 t	1,878 t	8 t	47 t	19 t	0t	26 t	246 t
	これまで 実施した取組	・ボイラの最適燃焼管理および低灰分炭の消費量拡大により、燃焼灰の発生抑制に努めている。	・ボイラの最適燃焼管理および低灰分炭の消費量拡大により、燃焼灰の発生抑制に努めている。	・排水処理装置の運転調整により、排出量の抑制に努めている。	・分別により、有償物として回収することにより、排出量の抑制に努めている。	・耐久性の高い製品を利用することにより、排出量の抑制に努めている。	・工事内容を見直しにより、排出量の抑制に努めている。	・分別により、有償物として回収することにより、排出量の抑制に努めている。	・工事内容を見直しにより、排出量の抑制に努めている。	・工事内容を見直しにより、排出量の抑制に努めている。
【目標】										
②計画	産業廃棄物の種類	ばいじん	燃え殻	汚泥	廃油	廃プラスチック類	木くず	金属くず	ガラス コンクリート 陶磁器くず	がれき類
	排 出 量	110,000 t	11,000 t	1,600 t	10 t	45 t	20 t	10 t	30 t	130 t
	今後実施する 予定の取組	・ボイラの最適燃焼管理および低灰分炭の消費量拡大を継続することにより、燃焼灰の発生抑制に努める。	・ボイラの最適燃焼管理および低灰分炭の消費量拡大を継続することにより、燃焼灰の発生抑制に努める。	・排水処理装置の運転調整により、排出量の抑制に努める。	・分別により、有償物として回収することにより、排出量の抑制に努める。	・耐久性の高い製品を継続利用することにより、排出量の抑制に努める。	・工事内容を見直しにより、排出量の抑制に努める。	・分別により、有償物として回収することにより、排出量の抑制に努める。	・工事内容を見直しにより、排出量の抑制に努める。	・工事内容を見直しにより、排出量の抑制に努める。

産業廃棄物の処理の委託に関する事項 (第4・5面)

産業廃棄物の処理の委託に関する事項										
【前年度 (2022年度) 実績】										
産業廃棄物の種類	ばいじん	燃え殻	汚泥	廃油	廃プラスチック類	木くず	金属くず	ガラス コンクリート 陶磁器くず	がれき類	
①現状	全処理委託量	84,247 t	1,878 t	8 t	47 t	19 t	0 t	26 t	246 t	
	優良認定処理業者への 処理委託量	24,784 t	84 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	52 t	
	再生利用業者への 処理委託量	63,362 t	1,614 t	0 t	4 t	16 t	0 t	0 t	0 t	
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	これまで 実施した取組	セメント原料 および再生路盤 材料(富山県 リサイクル認定 製品)として再 生利用に努めて いる。	セメント原料 として再生利用 に努めている。	産業廃棄物の 分別を徹底し、 最終処分量の低 減に努めている。	産業廃棄物の 分別を徹底し、 再生利用量の増 減に努めている。	産業廃棄物の 分別を徹底し、 全量を再生利用 として回収して いる。	産業廃棄物の 分別を徹底し、 全量を再生利用 として回収して いる。	産業廃棄物の 分別を徹底し、 最終処分量の低 減に努めている。	・工事内容の見 直しにより、継 続的に排出量の 抑制に努めてい る。	
【目標】										
産業廃棄物の種類	ばいじん	燃え殻	汚泥	廃油	廃プラスチック類	木くず	金属くず	ガラス コンクリート 陶磁器くず	がれき類	
②計画	全処理委託量	88,000 t	1,000 t	10 t	45 t	20 t	10 t	30 t	130 t	
	優良認定処理業者への 処理委託量	50,000 t	5 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	30 t	
	再生利用業者への 処理委託量	41,000 t	1,000 t	0 t	5 t	20 t	10 t	0 t	0 t	
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	今後実施する 予定の取組	・再生利用に努 めるとともに、 石炭灰供給力確 保、品質向上等 を、再生利用拡 大に向けて継続 的に取り組む。	・セメント原料 での再生利用拡 大を検討する。	・産業廃棄物の 分別を徹底し、 最終処分量の低 減を継続する。	・産業廃棄物の 分別を徹底し、 再生利用量の増 減を継続する。	・産業廃棄物の 分別を徹底し、 再生利用の全量 回収を継続す る。	・産業廃棄物の 分別を徹底し、 再生利用の全量 回収を継続す る。	・産業廃棄物の 分別を徹底し、 最終処分量の低 減を継続する。	・工事内容を見 直すことで、最 終処分量の低減 に努める。	